

## 付録一 4 定期点検結果の記入要領

1	点検調書（その1）	橋梁の諸元と総合診断結果	1
2	点検調書（その2）	一般図	8
3	点検調書（その3）	現地状況写真	9
4	点検調書（その4）	点検結果	10
5	点検調書（その5）	変状図	12
6	点検調書（その6）	変状写真	14
7	点検調書（その7）	部材番号図	15
8	点検表記録様式（道路橋定期点検要領）		17

---

	点検調書記入例	18
	点検調書（石橋用）	31
	点検表記録様式（道路橋定期点検要領）	40

※「大分県道路施設マネジメントシステム」への登録についてはシステムのマニュアルを参照

## 1 点検調書（その1）橋梁の諸元と総合診断結果

本調書では、橋梁台帳等を基に対象橋梁の諸元について整理する。

諸元の入力・修正は、「大分県道路施設マネジメントシステム」から出力された専用 EXCEL ファイルを用いて行うこと。

調書で表示される内容と専用 EXCEL ファイルで表示される内容は異なるので、緒元データの入力・修正は「大分県道路施設マネジメントシステム」のマニュアルによること。

また、定期点検結果の総合所見として、複数の部材の複数の変状を総合的に評価するなど、橋全体としての状態についての所見を、「総合診断結果」欄に記載する。

※ 点検時に諸元等の記載間違いを発見した場合は、正しい内容に修正すること。

この場合、修正箇所を発注者に明示すること（意図しない修正とならないように）。

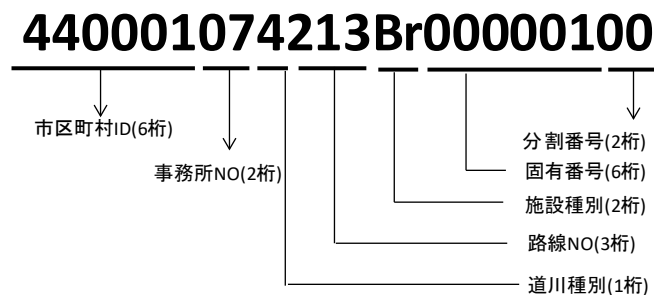
### (1) 橋梁名

橋梁名を入力する。橋名板と台帳に差異がみられた場合は、事務所に確認すること。

### (2) 施設管理番号

道路施設共通の施設管理番号（23桁）を入力する。

通常は設定済みである。不明の場合は事務所に確認すること。



### (3) 管轄

土木事務所名を入力する、

### (4) 点検年月日

主要な現地点検が完了した日付を入力する。※点検後に現地再確認を行った日とはしない。

形式は、「西暦年/月/日」とする。

### (5) 所在地

「大分県」は省略し、市郡から大字まで入力する。

(6) 路線種別

路線種別は、以下の中から選別する。

一般国道
主要地方道
一般地方道

(7) 路線名

国道の場合は路線番号、その他は路線名を入力する。

(8) 路線指定

緊急指定について以下のいずれかを入力する。不明場合は事務所に確認すること。

1次緊急輸送道路
2次緊急輸送道路
緊急用河川敷道路
指定なし

(9) 点検者（社名）

点検を実施した会社名（コンサルタント）を入力する。職員が行った場合は、土木事務所名を入力する。

(10) 点検責任者

点検・診断に対する最終判断を行った技術者の氏名を入力する。

(11) 架設年

架設年（1月～12月）を入力する。

年度ではないので注意すること（2015年3月の場合は2015年）。

別橋で拡幅されている場合は、新旧を併記する。

多径間橋などで複数年にまたがる場合は、全径間が完了した年とする。

(12) 橋長

橋長を入力する。

(13) 活荷重・等級

道路橋示方書と活荷重の分類

道路橋示方書	活荷重			備考
大正 15 年	12 t f	8 t f	6 t f	
昭和 1 4 年	13 t f	9 t f	—	
昭和 3 1 年～昭和 39 年	TL-20	TL-14	—	
昭和 4 7 年～平成 2 年	TL-20	TL-14	TT-43	
平成 6 年～平成 2 4 年	B 活荷重	A 活荷重	—	

道路橋示方書等級の分類

道路橋示方書	一等橋	二等橋	三等橋
大正 15 年	○	○	○
昭和 1 4 年～平成 2 年	○	○	—
平成 6 年～平成 2 4 年	—	—	—

(14) 適用示方書

上下部工それぞれについて制定（改定）年を入力する。

不明な場合は架設年から推定してよい。架設年が不明な場合のみ「不明」とする。

道路橋示方書は以下のいずれかを入力する

大正 15 年	昭和 14 年	—	—	—	—
昭和 3 1 年	昭和 39 年	昭和 4 7 年	昭和 5 3 年	昭和 5 5 年	平成 2 年
平成 6 年	平成 7 年※	平成 8 年	平成 1 4 年	平成 2 4 年	—

※「兵庫県南部地震により被災した道路橋の復旧に係わる仕様」を適用した場合

(15) 上部工形式

上部工形式について入力する。

複数の形式が混在する場合は、全てを列記する。

<形式名のルール（参考）>

[鋼桁橋の場合]

「材料」+「径間数」+「単純・連続・ゲルバー」+「合成・非合成」+「断面構造」

(例) 鋼 1 径間単純合成鈹桁橋

鋼 3 径間連続非合成箱桁橋

[その他の鋼橋の場合]

「材料」+「径間数」+「単純・連続」+「路面位置」+「断面構造」

(例) 鋼 1 径間単純下路ニールセンローゼ橋

鋼 3 径間連続上路トラス橋

[PC 桁橋の場合]

「材料」+「径間数」+「単純・連続・連結」+「プレストレス・打設方式」+「断面構造」

(例) PC2 径間単純プレテン T 桁橋

PC3 径間連結ボステン T 桁橋

PC4 径間連続場所打ち中空床版橋

PC1 径間単純場所打ち箱桁橋

[その他の PC 橋の場合]

「材料」+「径間数」+「単純・連続・連結」+「全体構造」

(例) PC3 径間連続斜張橋

[RC 桁橋の場合]

「材料」+「径間数」+「単純・連続・ゲルバー」+「打設方式（省略可）」+「断面構造」

(例) RC1 径間単純床版橋

RC3 径間連続場中空床版橋

RC1 径間単純プレキャスト床版橋

RC3 径間ゲルバー T 桁橋

[その他の RC 橋の場合]

「材料」+「径間数」+「単純・連続・連結」+「路面位置」+「全体構造」

(例) RC1 径間単純上路アーチ橋

RC2 連ボックスカルバート（溝橋）

(16) 下部工形式

上部工形式について入力する。

複数の形式が混在する場合は、全てを列記する。

<形式名のルール（参考）>

[橋台の例]

- 重力式橋台
- 逆 T 式橋台
- 控壁式橋台
- 箱式橋台（内部密閉の場合）
- ラーメン式橋台（内部が道路や水路となっている場合）

[橋脚の例]

- 張出式橋脚
- 壁式橋脚（縦横比が 1：3 以上）
- 柱式橋脚（縦横比が 1：3 未満）
- 2 柱式橋脚（柱の本数による）
- 中空式橋脚
- ラーメン式橋脚
- ロッキング橋脚
- パイルベント式橋脚

[溝橋の例]

- ボックスカルバート

#### (17) 基礎形式

基礎形式を入力する。不明な場合は事務所に確認すること。  
岩盤が露出している場合は、直接基礎と推定してよい。

(例)

- 直接基礎
- 杭基礎（鋼管杭）
- 杭基礎（木杭）
- 杭基礎（RC 杭）※既成杭の場合
- 杭基礎（PC 杭）
- 杭基礎（PHC 杭）
- 杭基礎（SC 杭）
- 杭基礎（鋼管ソイルセメント杭）
- 杭基礎（場所打ち杭）
- 杭基礎（深礎杭）
- オープンケーソン
- ニューマチックケーソン

※古い河川橋ではオープンケーソンの止水壁跡が確認できる場合があるのでよく観察すること。

#### (18) 調査足場

点検の近接に用いた手段を入力する。

複数ある場合は主なものを3つまで入力する。この場合、地上は入力しなくてよい。

(例)

- 地上
- 梯子
- 吊足場
- 固定足場
- 橋梁点検車
- 高所作業車
- リフト車
- ボート
- 検査路
- ロープアクセス

#### (19) 特記事項

当該橋梁または当該点検における固有の注意事項名を入力する。

※点検結果に関することは「総合診断結果」に入力

(例)

- 点検が複数年にわたる場合の注記（必須）
- 縦断勾配が急なため橋梁点検車が使用できない

(20) 交差物件

交差物件を4件まで入力する。

(21) 関係機関協議先

点検時の関係橋機器間先を4件まで入力する。

(22) 次回点検（予定）

次回点検予定年度を入力する。通常は5年後である。

以下の場合、発注者と協議して点検年度を設定する。

- ・点検結果から、5年より短い間隔での点検が必要と判断された場合
- ・第三者被害予防のために、5年より短い間隔での点検が必要と判断された場合
- ・当該橋梁に未点検区間がある場合

(22) 特筆すべき劣化環境

当該橋梁固有の劣化環境を入力する。

劣化環境は以下の3項目及び任意1項目とする。任意の項目は再右欄に入力する。

- ・海塩の影響※
- ・寒冷（凍結防止剤）
- ・温泉

※海からの飛来塩分（飛沫）や満潮時に桁下へ海水が上がってくる場合。

(23) 健全度

主要な部材に着目した橋全体の健全度と主要な部材以外も含めた最も低い健全度をを入力する。

(24) 総合診断結果

定期点検結果の総括をを入力する。

入力にあたり、以下の点に留意して記載する。

- ・橋梁の経過年数、形式。
- ・橋梁に与える影響が大きい変状について、状況、原因、進行の程度、対策区分と判定理由。
- ・前回点検から進行が見られた変状
- ・補修・補強にあつての注意事項
- ・日常維持管理における注意事項
- ・補修・補強が行われている場合の概要と効果に対する評価
- ・橋梁全体としての対策区分及び健全度
- ・コメントの最後に年月日（通常は点検年月日）をカッコ書きで記載



## 2 点検調書（その2）一般図

本調書では、対象橋梁の一般図（平面図、側面図、断面図）を整理する。

点検調書（その2）の記入要領は、以下のとおりとする。

一般図	平面図、側面図、断面図を一式とする ※補強等を反映させた現況の一般図とすること 現況の一般図がない場合には、新たに作成すること
-----	---

### 3 点検調書（その3）現地状況写真

本調書では、対象橋梁の概況が判る現地状況写真を整理する。

写真は正面，側面，桁下面（上部構造形式が判るもの），橋歴板（架設竣工年が判るもの）の4枚1組で構成する。なお、上部構造形式が複数混在する場合などにおいてはそれぞれ写真撮影し、本調書の枚数を増やして記録する。

点検調書（その3）の記入要領は、以下のとおりとする。

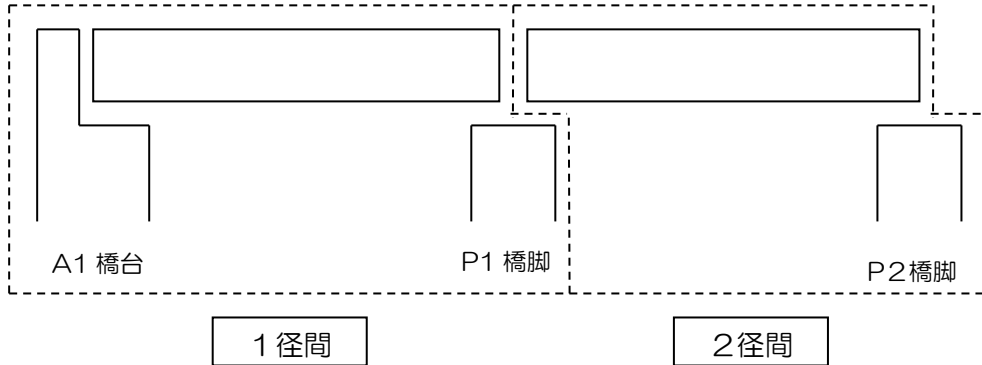
写真番号	写真と対応した番号（1 から順に記入。写真は横方向に順に貼付する。）
写真説明	撮影対象箇所（側面、路面、路下 等）
メモ	写真内容の補足説明

#### 4 点検調書（その4）点検結果

本調書には、一般橋梁と石橋用がある。各々橋全体と径間別があり、書式は同一で、部材毎に変状の種類・程度などを径間毎に整理する。単径間の場合は径間別は不要である。

橋全体は、全径間の中から各部材、変状について最も厳しい対策区分を記載する。

なお、多径間の場合の径間区分は下図に示すとおりとする。



##### ※支承の径間区分

単純桁の場合 P1 橋脚上の起点側：1 径間， 終点側：2 径間

連続桁の場合 P1 橋脚上：1 径間

##### ※落橋防止システムの径間区分

沓座拡幅・壁構造：橋脚の径間単位

上部工連結構造：本体は起点側の上部工径間， 定着部は設置される上部工径間

上下部連結構造：定着部が設置される上部工径間

点検調書（その4）の記入要領は、以下のとおりとする。

上部工形式， 下部工形式， 基礎形式	点検調書（その1）及び橋梁諸元データから自動作成される。
対策区分	部材、変状種類毎に対策区分を記載する（「付表-2.1」参照）。 対象部材や対象変状が無いものについては「-」を入力する。 記載する優先順位は「E1>E2>C2>C1>S1>M>S2>B1>B0>A」の順とする。
健全度判定	最も厳しい変状に対する健全度を部材単位で記載する（「付表-2.2」参照）。
主たる変状	代表的な変状（最も厳しい健全度を与える）の、変状番号と劣化要因について記載する。 記載方法はコード入力とし、付表-2.3 に示す項目から選定する。
備考	評価の対象とした部材について特筆すべき事項や主たる劣化要因「8：その他」の要因名、などを記載する。例）横桁等：対傾構・横構を含む
その他	表中に記載されていないその他の部材などの変状について記載する。 例）照明施設：アンカーボルトの①防食機能の劣化・腐食-e

付表-2.1 対策区分の分類

対策区分	判定の内容
A	変状が認められないか、変状が軽微で補修を行う必要がない
B0	次回点検まで対策を行わなくても安全性を損なう危険性が低く、状況に応じて補修を行う程度の変状
B1	次回点検まで対策を行わなくても安全性を損なう危険性が低いが、予防保全の観点では、状況に応じて補修を行うことが望ましい
C1	予防保全の観点から、次回点検までに対策を行うことが望ましい
C2	橋梁構造の安全性の観点から、次回点検までに対策を行うことが望ましい
E1	橋梁構造の安全性の観点から、緊急対応の必要がある
E2	第三者被害防止等の観点から、緊急対応の必要がある
S1	詳細調査を行い補修の要否を検討する必要がある
S2	早期に補修を行う必要は無いが、進行の可能性のある変状が認められ、追跡調査により監視することが望ましい
M	維持工事で対応することが望ましい

付表-2.2 健全性の診断の分類

区分	区分
I	健全 構造物の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階 構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階 構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階 構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態


付表-2.3 主たる劣化要因のコード表

コード	主たる劣化要因	備考
1	経年劣化	コンクリートの中性化や通常状態の腐食進行など
2	疲労・耐荷力不足	耐荷性能の不足に起因する変状
3	塩害	海浜部及び凍結防止剤散布などに起因する変状
4	アルカリ骨材反応	アルカリ骨材反応の疑いがある変状
5	施工不良・初期変状	施工不良（豆板やコールドジョイントなど）や劣化の進行性が低い初期変状（乾燥収縮によるひびわれなど）
6	その他	上記以外の劣化要因のもの 例）凍害，化学的侵食，火害など


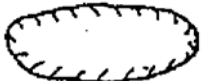




## 5 点検調書（その5）変状図

本調書では、対象橋梁の部位・部材の変状の種類・程度や箇所などを径間毎に整理する。径間別一般図に、部材名称、変状種類番号・変状名、変状程度の評価区分記号、の順序で記入する（「変状種類番号・変状名」及び「変状程度の評価区分記号」については「付録－1」を参照）。また、各変状箇所に対応して写真の番号（「点検調書（その6）の写真番号」）を記入する。

部材名	変状種類番号・変状名	変状程度の評価	対策区分
下部工（橋脚・梁部）：⑤ひびわれ－d（B1）			
写真番号 1			



なお、記入にあたっては、以下の凡例の内容を変状図に添付し、参考としても良い。

変状の種類	表示	変状の種類	表示
ひびわれ		遊離石灰	
剥離		漏水	
鉄筋露出		その他	

点検の結果は、単に変状の大小という情報だけではなく、効率的な維持管理を行うための基礎的な情報として様々な形で利用される。例えば、ひびわれ状況をもとにアルカリ骨材反応を検討したり、亀裂の発生箇所周辺の変状状況をもとに変状原因を考察したりする場合には、変状図が重要な情報源となる。

したがって、変状の程度を適切な方法で詳細に記録しなければならない。変状状況を示す情報のうち、定性的な評価基準（付録－1）を用いて変状の程度を表せない情報については、本点検調書上で、変状図や文章等を用いて記録することとする。

以下に、定性的な評価基準で変状の程度を表せない情報に対する記録方法例を示す。

- コンクリート部材におけるひびわれの状況のスケッチ（主要な寸法も並記する）
- コンクリート部材におけるうき、剥離、変色等の変状箇所及び範囲のスケッチ
- 鋼製部材の亀裂発生位置、進展の状況のスケッチ
- 鋼製部材の変形の位置や状況のスケッチ
- 漏水箇所など変状の発生位置
- 異常音や振動など写真では記録できない変状の記述

なお、同一部材において同一変状が広範囲で生じている場合など、スケッチによる記録が困難と判断される場合においては、変状程度の評価、劣化要因の推定、対策区分の判定、追跡調査などの実施に必要な最低限の変状状況を記載するとともに、発生範囲を図又は文章で示すことでこれを簡略化しても良いものとする。

## 床版の変状図の模範例

- 1) 床版の変状ランクが確認できる程度の近接目視で全パネルを点検し、変状の種類と変状程度を把握する。
- 2) 各パネル（要素）を床版ひびわれの変状程度に応じてグループ分けを行う。
- 3) それぞれのグループの代表パネルについて近接点検を行う。
- 4) 変状図の書き方

- ①床版ひびわれは、変状程度別の代表パネルのみスケッチを書く（写真等で記録）。
- ②床版ひびわれのスケッチを省略するパネルについては、そのパネルの変状程度をチェックシート方式で記入する。

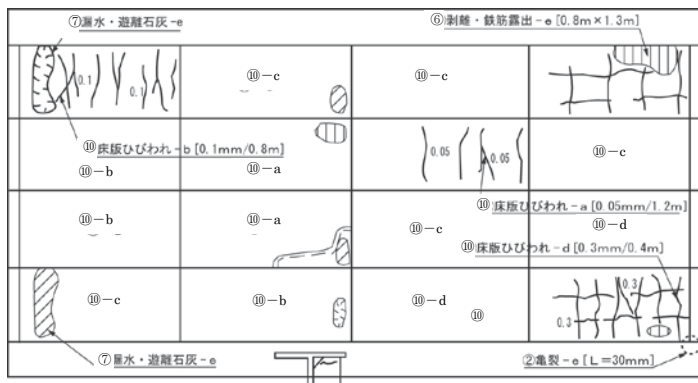
例：床版ひびわれのcランクであれば『⑩-c』と記入する

ここで示す⑩は、変状の種類「床版ひびわれ」の番号。

- ③床版ひびわれ以外の変状があれば、代表パネル以外でもマークで記入する。この場合、引き出し線で記入するのは（d及びeランク）とし、（b及びcランク）は凡例のみ記入する。

### 【記入例】

床版ひびわれの変状程度がa,b,c,dの4種類であった場合、それぞれの変状程度に応じた代表的なパネルについてスケッチを記入し、スケッチを省略するパネルについては、変状程度を記号化して記入する。



損傷の種類	表示	損傷の種類	表示
ひびわれ		遊離石灰	
剥離		漏水	
鉄筋露出		その他	

注1) 「床版ひびわれ」以外の凡例のみの変状は、b～cランクの変状である。なお、評価区分については、野帳にメモしておくこと。

注2) 「床版ひびわれ」以外のd～eランクの変状については、引き出し線で記入を行う。

## 6 点検調書（その6）変状写真

本調書では、点検の結果把握された代表的な変状の写真などを径間毎に整理する。

点検調書（その6）の記入要領は、以下のとおりとする。

なお、同一径間内に同一部材に同種別の変状が複数確認される場合は変状程度が最も大きいものを代表として記録しても良いが、発生条件が異なる場合（「ひびわれ」において初期劣化（乾燥収縮）によるものと耐荷力不足によるものなど）においては、それぞれ撮影する。

写真番号	写真と対応した番号（1 から順に記入。写真は横方向に順に貼付ける。）
径間番号	写真に対応した径間番号
部材名	主桁、床版などの部材名
変状の種類	変状名（ひびわれ、亀裂 等；「付録－1」参照）
変状程度	変状程度の評価区分記号（「付録－1」参照）
撮影年月日	写真の撮影年月日
対策区分	変状の対策区分（「付録－2」参照）
メモ	写真内容の補足説明

なお、貼付した写真には起点・終点の方向を記入する。また、写真撮影にあたっては、できるだけ黒板（下図参照）を入れて撮影することとし、さらにスケールが判るようなものを添えておくことが望ましい。

1.写真番号
2.橋梁名
3.部材名
4.変状の種類及び番号

## 7 点検調書（その7）部材番号図

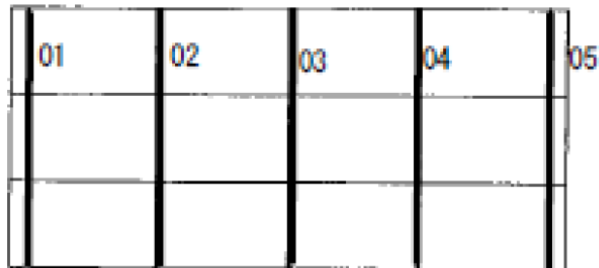
本調書では、部材番号図を記載する。

部材番号は、国へ提出する様式で必要となるので、必ず作成すること。

### 部材番号例



### 横桁 (C r)



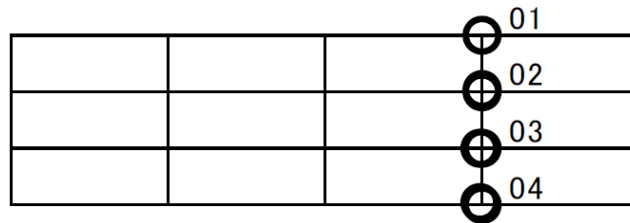
### 橋脚 (P), 橋台 (A)



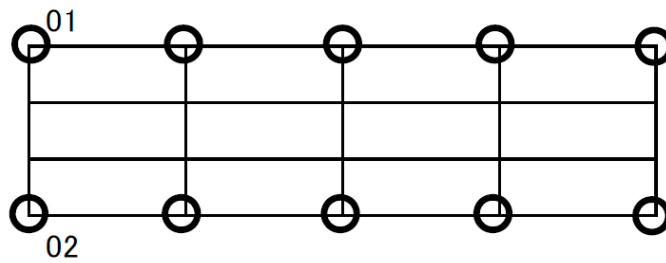


## 部材番号例

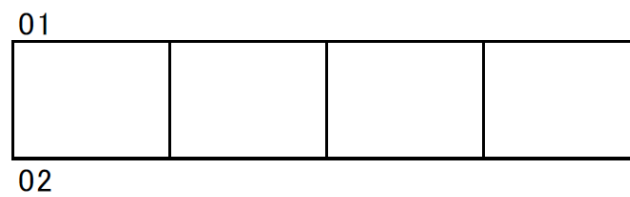
- ・ゲルバー部



- ・PC定着部



- ・アーチ、トラスの格点
- ・トラスの斜材、垂直材のコンクリート埋込部
- ・アーチの吊り材等のコンクリート埋込部



## 8 点検表記録様式（道路橋定期点検要領）

国へ提出する様式である。

詳細は以下によること。

「道路橋定期点検要領 平成26年6月 国土交通省 道路局」別添3

# 点検調書記入例

# 点検調書 石橋用

# 点検表記録様式

## (道路橋定期点検要領)

点検調書(その1) 橋梁の諸元

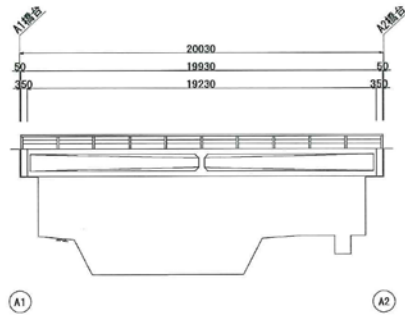
ふりがな	まるまるはし			施設管理番号	12345678901234567890123			管轄	〇〇土木			点検年月日	今回： 2011/10/20		前回： 2006/9/25	
橋梁名	〇〇橋			路線	道路種別	一般国道			路線指定	緊急輸送(1次)						
所在地	〇〇市△△町××				路線名	〇〇号			点検者(社名)	〇〇〇〇(〇〇コンサルタント)			点検責任者	〇〇		
架設年	1975年	橋長	20.10m	活荷重・等級	TL-20	一等橋	適用示方書	上部工：昭和53年			下部工：昭和47年			物件1	JR〇〇線	
上部工形式	PC5径間単純ポステンT桁			幅員	全幅員	12.0	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線	車道幅・車線	歩道幅	地覆幅	中央帯	中央分離帯	物件2	〇〇川
					有効幅員	11.0	0.50	2.00	3.50	1	3.50	1	2.00	0.50		
下部工形式	逆T式橋台			調査足場	梯子			特記事項	第4径間は未点検(2012年の予定)			物件4				
				関係機関協議先	JR九州〇〇保線区			〇〇河川国道事務所〇〇課			〇〇市〇〇課					
基礎形式	杭基礎(PHC杭)			次回点検(予定)	2015年	特筆すべき劣化環境	海塩の影響	寒冷(凍結防止剤)	温泉	地滑りの影響が懸念される						
総合診断結果	健全度(橋単位) II(主要部材: II、主要部材以外: II) ※コメントの最後に年月日を記入すること															
	本橋は、架設後33年が経過したPCポステンT桁橋であり、全体的に経年的な劣化の進行が見られる。															
	特に、橋台及び親柱において、アルカリ骨材反応の疑いがあるひびわれが確認されており、劣化の進行が著しい。特に下部工については、早期の対策が必要と考えられる。															
	上部工においては、かぶり不足による剥離・鉄筋露出や橋面防水不良による間詰め床版からの漏水・遊離石灰が確認される。															
アルカリ骨材反応の疑いがある部材に対しては、予防保全の観点から、詳細調査を行い補修をするのがよい。																
舗装のひびわれ、上部工の漏水・遊離石灰は、予防保全の観点から、橋面防水を含めた舗装打換えによる防水対策を行うことが望ましい。																
〇〇〇〇年に主桁のひびわれを対象に補修工事が実施されており、再劣化は生じていない。																
〇〇〇〇年に排水ますの清掃が行われたが、土砂詰りが生じている。																
上記を総合的に判断し、橋梁全体の対策区分の判定としてはC1評価、健全性についてはII(予防保全段階)とする。(2011/10/20)																

点検調書(その2) 一般図

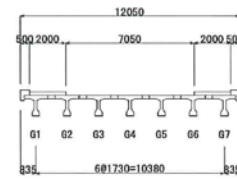
ふりがな	まるまるはし	施設番号	000000	管轄	〇〇土木	点検年月日	今回	2011/10/20	前回
橋梁名	〇〇橋	路線	道路種別	一般国道	路線指定	緊急輸送(1次)			
所在地	〇〇市△△町××		路線名	〇〇号	点検実施者	〇〇〇〇(〇〇コンサルタント)	〇〇		

一  
般  
図

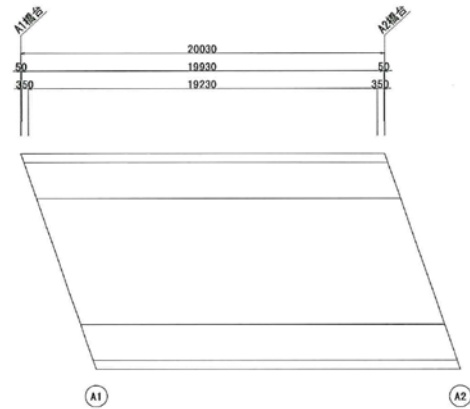
側面図 S=1/100



上部工標準断面図 S=1/50







平面図 S=1/100



点検調書(その3) 現地状況写真

※前回写真と同一位置からの撮影を原則とする。

ふりがな	まるまるはし	施設番号	200154	管轄	〇〇土木	点検年月日	今回	2011/10/20	前回	0
橋梁名	〇〇橋	路線	道路種別	一般国道		路線指定	緊急輸送(1次)			
所在地	〇〇市△△町××		路線名	〇〇号		点検実施者	〇〇〇〇(〇〇コンサルト)		〇〇	

現 況 状 況 写 真	写真番号	1	メモ	写真番号	2	メモ
	写真説明	橋面		写真説明	側面	
						
	写真番号	3	メモ	写真番号	4	メモ
写真説明	桁下		写真説明	竣工年月	昭和50年3月	
						



点検調書(その4) 橋全体点検結果		総径間数		※ 1径間のみの橋は径間別点検結果は不要																										
ふりがな	まるまるはし			施設番号	200154		管轄	〇〇土木		点検年月日	今回	2011/10/20		前回																
橋梁名	〇〇橋			路線	道路種別	一般国道			路線指定	緊急輸送(1次)																				
所在地	〇〇市△△町××				路線名	〇〇号			点検者(社名)	〇〇〇〇(〇〇コンサルト)				点検責任者																
上部工形式	PCポステン単純T桁			下部工形式	逆T式橋台			基礎形式	杭基礎(PHC杭)																					
変状の種類	鋼部材の変状				コンクリートの変状				その他				共通							主たる変状		備考 (補修されている場合は、その内容、効果を記入する。)								
	① 防食機能の劣化・腐食	② 亀裂	③ ゆるみ・脱落	④ 破断	⑤ ひびわれ	⑥ 床版ひびわれ	⑦ 剥離・鉄筋露出	⑧ 漏水・遊離石灰	⑨ 抜け落ち	⑩ うき	⑪ 遊間の異常	⑫ 路面の凹凸	⑬ 舗装の異常	⑭ 支承の機能障害	⑮ その他	⑯ 補修・補強材の変状	⑰ 定着部の異常	⑱ 変色・劣化	⑲ 漏水・滞水	⑳ 異常な音・振動	㉑ 異常たわみ		㉒ 変形・欠損	㉓ 土砂詰り	㉔ 沈下・移動・傾斜	㉕ 洗掘	健全度判定	変状番号	劣化要因コード	
対象部材																														
上部工	主桁	-	-	-	-	A	-	A	B1	-	A	A	-	-	-	A	-	A	-	A	A	A	-	-	-	II	8	1		
	横桁等	-	-	-	-	A	-	B0	B1	-	A	-	-	-	-	A	-	A	-	-	A	-	-	-	-	II	7	1		
	床版	-	-	-	-	B1	-	A	B1	A	A	-	-	-	-	A	-	-	-	-	-	A	-	-	-	II	5	1		
下部工	橋台	-	-	-	-	C1	-	A	B1	-	A	-	-	-	-	A	-	-	-	B1	-	-	A	-	A	A	II	5	4	
	橋脚	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	基礎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
支承		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	A	A	-	-	A	-	A	-	A	A	A	-	I	-	-		
その他	高欄・防護柵	-	-	-	-	A	-	B0	A	-	A	-	-	-	-	A	-	-	-	-	-	A	-	-	-	I	7	-		
	地覆	-	-	-	-	B1	-	B0	A	-	A	-	-	-	-	A	-	-	-	-	-	A	-	-	-	I	5	4	アルカリ骨材反応	
	伸縮装置	-	-	-	-	B0	-	-	-	-	A	A	-	-	-	A	-	-	-	-	-	A	-	-	-	I	-	-		
	舗装	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	A	B1	-	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	II	14	1		
	排水施設	A	A	A	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	A	-	-	A	A	-	-	A	M	-	-	II	23	1		
	落橋防止システム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
備考																														

※ 対象部材や対象変状が無い場合は「-」を入力。

入力を行う場合、対策区分は半角英字「A・B0・B1・C1・C2・E1・E2・S1・S2・M」のいずれかを入力。

主たる劣化要因についてはコード入力とし、<1:経年劣化(中性化を含む), 2:疲労・耐荷力不足, 3:塩害, 4:アルカリ骨材反応, 5:施工不良・初期損傷, 6:その他>から選択。

点検調書(その4) 径間別点検結果		径間番号	1																											
ふりがな	まるまるはし		施設番号	200154	管轄	〇〇土木	点検年月日	今回	2011/10/20	前回																				
橋梁名	〇〇橋		路線	道路種別	一般国道		路線指定	緊急輸送(1次)																						
所在地	〇〇市△△町××			路線名	〇〇号		点検者(社名)	〇〇〇〇(〇〇コンサルト)		点検責任者																				
上部工形式	PCポステン単純T桁		下部工形式	逆T式橋台		基礎形式	杭基礎(PHC杭)																							
変状の種類	鋼部材の変状					コンクリートの変状					その他					共通					主たる変状		備考 (補修されている場合は、その内容、効果を記入する。)							
	①防食機能の劣化・腐食	②亀裂	③ゆるみ・脱落	④破断	⑤ひびわれ	⑥床版ひびわれ	⑦剥離・鉄筋露出	⑧漏水・遊離石灰	⑨抜け落ち	⑩うき	⑪遊間の異常	⑫路面の凹凸	⑬舗装の異常	⑭支承の機能障害	⑮その他	⑯補修・補強材の変状	⑰定着部の異常	⑱変色・劣化	⑲漏水・滞水	⑳異常な音・振動	㉑異常たわみ	㉒変形・欠損		㉓土砂詰り	㉔沈下・移動・傾斜	㉕洗掘	健全度判定	変状番号	劣化要因コード	
対象部材	上部工	主桁	-	-	-	-	A	-	A	B1	-	A	A	-	-	-	A	-	A	-	A	A	-	-	-	II	8	1		
		横桁等	-	-	-	-	A	-	B0	B1	-	A	-	-	-	A	-	A	-	-	A	-	-	-	-	II	7	1		
	床版	-	-	-	-	B1	-	A	B1	A	A	-	-	-	-	A	-	-	-	-	A	-	-	-	II	5	1			
下部工	橋台(AO)	-	-	-	-	C1	-	A	B1	-	A	-	-	-	-	A	-	-	-	B1	-	-	A	-	A	A	II	5	4	
	橋脚(PO)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	基礎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	支承	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	A	A	-	-	A	-	A	-	A	A	A	-	I	-	-		
その他	高欄・防護柵	-	-	-	-	A	-	B0	A	-	A	-	-	-	-	A	-	-	-	-	-	A	-	-	-	I	7	-		
	地覆	-	-	-	-	B1	-	B0	A	-	A	-	-	-	-	A	-	-	-	-	-	A	-	-	-	I	5	4	アルカリ骨材反応	
	伸縮装置	-	-	-	-	B0	-	-	-	-	A	A	-	-	-	A	-	-	-	-	-	A	-	-	-	I	-	-		
	舗装	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	A	B1	-	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	II	14	1		
	排水施設	A	A	A	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	A	-	-	-	-	-	-	A	M	-	II	23	1		
	落橋防止システム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
備考																														

※ 対象部材や対象変状が無い場合は「-」を入力。

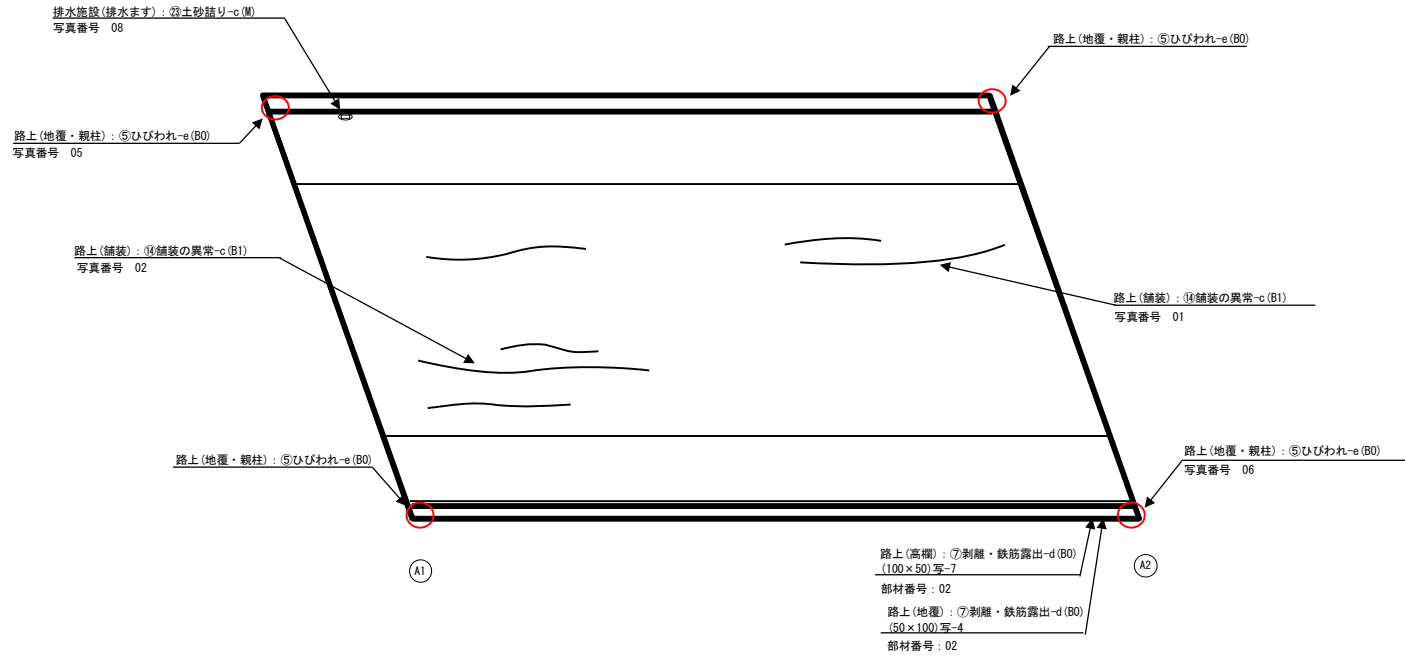
入力を行う場合、対策区分は半角英字「A・B0・B1・C1・C2・E1・E2・S1・S2・M」のいずれかを入力。

主たる劣化要因についてはコード入力とし、<1:経年劣化(中性化を含む), 2:疲労・耐荷力不足, 3:塩害, 4:アルカリ骨材反応, 5:施工不良・初期損傷, 6:その他>から選択。

点検調書(その5) 変状図		径間番号	1						
ふりがな	まるまるはし	施設番号	000000	管轄	〇〇土木	点検年月日	今回	2011/10/20	前回
橋梁名	〇〇橋	路線	道路種別	一般国道		路線指定	緊急輸送(1次)		
所在地	〇〇市△△町××		路線名	〇〇号		点検実施者	〇〇〇〇(〇〇コンサルタント) 〇〇		

1径間橋面 (A1-A2間)

変  
状  
図

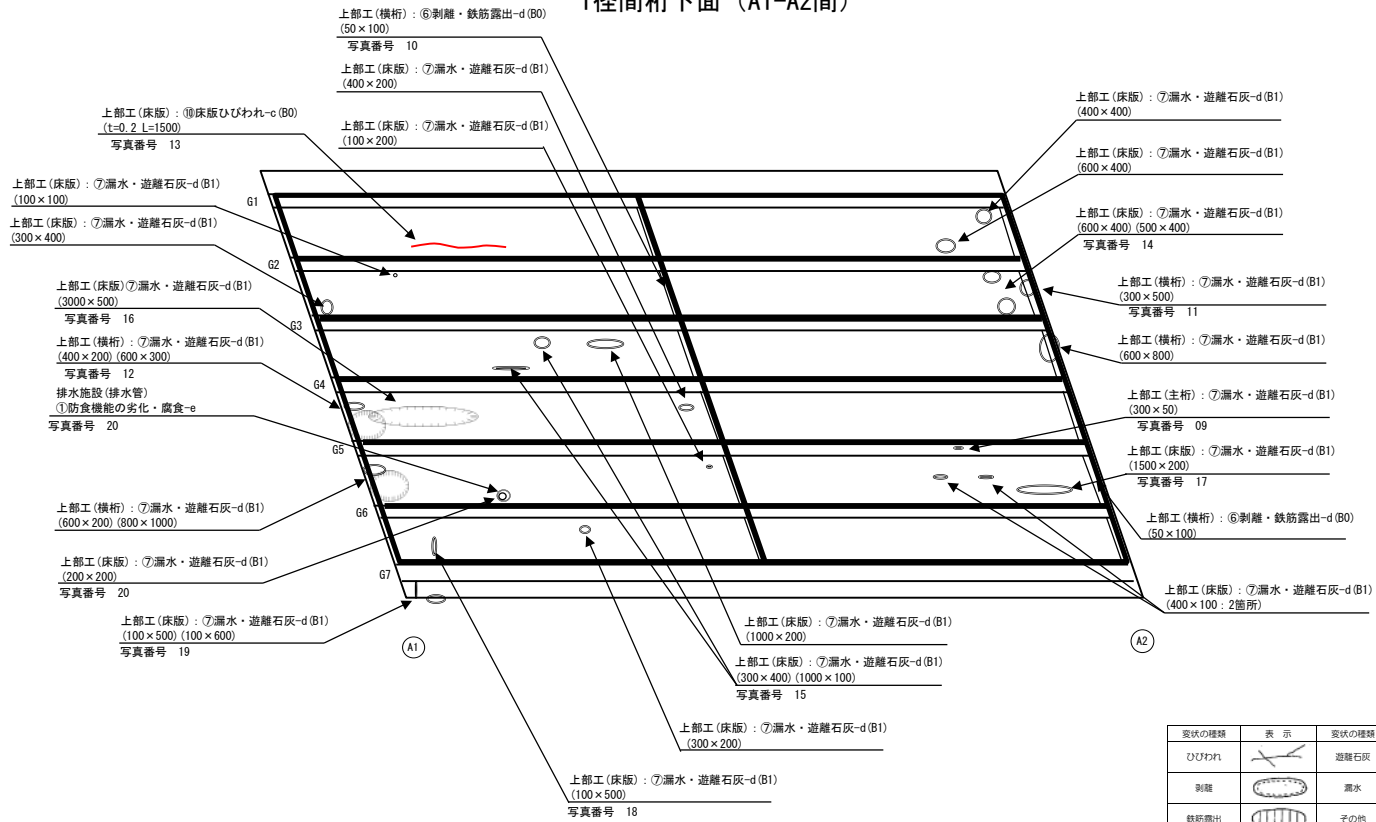


変状の種類	表 示	変状の種類	表 示
ひびわれ		遊離石灰	
剥離		湧水	
鉄筋露出		その他	

点検調書(その5) 変状図		径間番号	1									
ふりがな	まるまるはし		施設番号	000000	管轄	〇〇土木	点検年月	今回	2011/10/20	前回		
橋梁名	〇〇橋		路線	道路種別	一般国道		路線指定	緊急輸送(1次)				
所在地	〇〇市△△町××			路線名	〇〇号		点検実施者	〇〇〇〇(〇〇コンサルタント)		〇〇		

変状図

1径間桁下面 (A1-A2間)

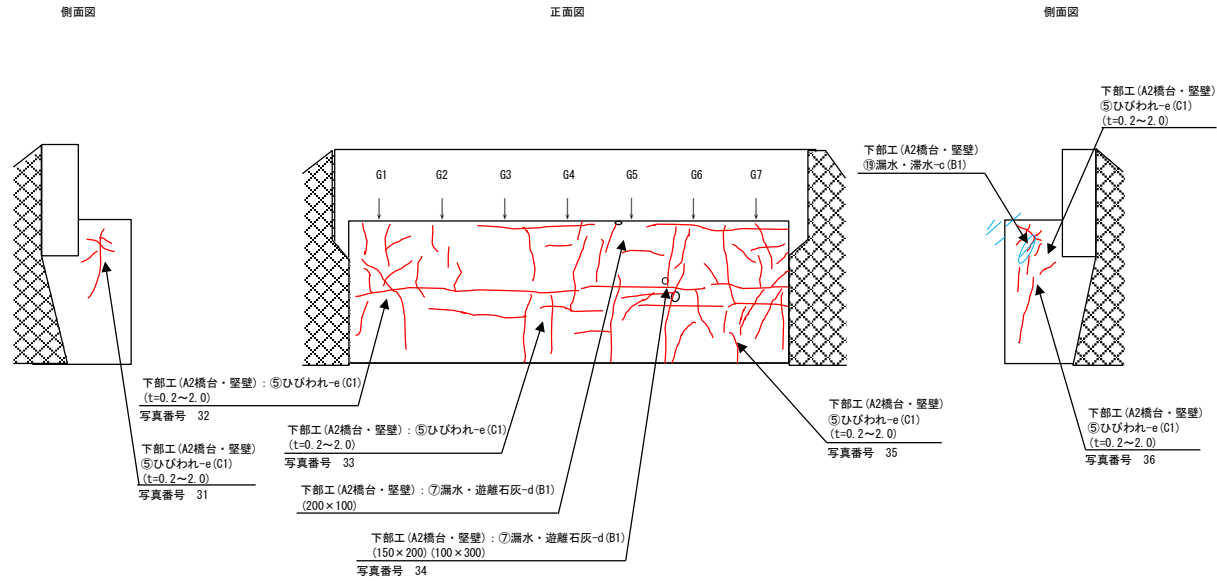


変状の種類	表示	変状の種類	表示
ひびわれ		遊離石灰	
剥離		漏水	
鉄筋露出		その他	

※床版の部材番号は全ての旗上げに表示する必要はない。





点検調書(その5) 変状図		径間番号	1							
ふりがな	まるまるはし	施設番号	000000	管轄	〇〇土木	点検年月	今回	2011/10/20	前回	0
橋梁名	〇〇橋	路線	道路種別	一般国道		路線指定	緊急輸送(1次)			
所在地	〇〇市△△町××		路線名	〇〇号		点検実施者	〇〇〇〇(〇〇コンサルタント) 〇〇			





下部工 (A2橋台)  
部材番号:02



変  
状  
図





変状の種類	表示	変状の種類	表示
ひびわれ		遊離石灰	
剥離		滞水	
鉄筋露出		その他	

点検調書(その6) 変状写真		径間番号	1									
ふりがな	まるまるはし		施設番号	000000	管轄	〇〇土木	点検年月日	今回	2010/10/20	前回		
橋梁名	〇〇橋		路線	道路種別	一般国道		路線指定	緊急輸送(1次)				
所在地	〇〇市△△町××			路線名	〇〇号		点検実施者	〇〇〇〇(〇〇コンサルタント) 〇〇				
変 状 写 真	写真番号	1	径間番号	1	メモ		写真番号	4	径間番号	1	メモ	
	部材名	舗装			対策区分	B0	部材名	地覆			対策区分	B0
	変状の種類	舗装の異常	変状程度	c	舗装ひびわれ (下り線)		変状の種類	剥離・鉄筋露出	変状程度	d	A=50×100	
	写真番号	5	径間番号	1			メモ		写真番号	7		
	部材名	地覆			対策区分	B0	部材名	高欄			対策区分	B0
	変状の種類	ひびわれ	変状程度	e	親柱(起点側左)		変状の種類	剥離・鉄筋露出	変状程度	d		

点検調書(その6) 変状写真		径間番号	1									
ふりがな	まるまるはし		施設番号	000000	管轄	〇〇土木	点検年月	今回	2010/10/20	前回		
橋梁名	〇〇橋		路線	道路種別	一般国道		路線指定	緊急輸送(1次)				
所在地	〇〇市△△町××			路線名	〇〇号		点検実施者	〇〇〇〇(〇〇コンサルタント) 〇〇				
変 状 写 真	写真番号	8	径間番号	1	メモ		写真番号	9	径間番号	1	メモ	
	部材名	排水施設			対策区分	M	部材名	主桁			対策区分	B1
	変状の種類	土砂詰り	変状程度	c			変状の種類	漏水・遊離石灰	変状程度	d	A=300×50	
												
	写真番号	10	径間番号	1	メモ		写真番号	11	径間番号	1	メモ	
	部材名	横桁			対策区分	B0	部材名	横桁			対策区分	B1
変状の種類	剥離・鉄筋露出	変状程度	d	A=50×100		変状の種類	漏水・遊離石灰	変状程度	d			
												

点検調書(その6) 変状写真	径間番号	1
----------------	------	---

ふりがな	まるまるはし	施設番号	000000	管轄	〇〇土木	点検年月	今回	2011/10/20	前回
橋梁名	〇〇橋	路線	道路種別	一般国道		路線指定	緊急輸送(1次)		
所在地	〇〇市△△町××		路線名	〇〇号		点検実施者	〇〇〇〇(〇〇コンサルタント) 〇〇		

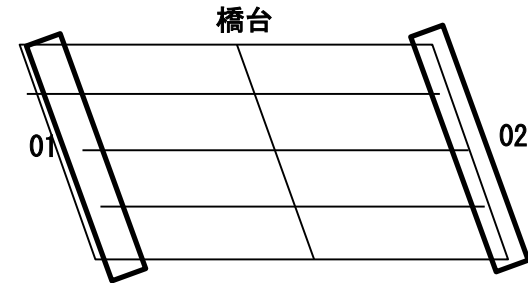
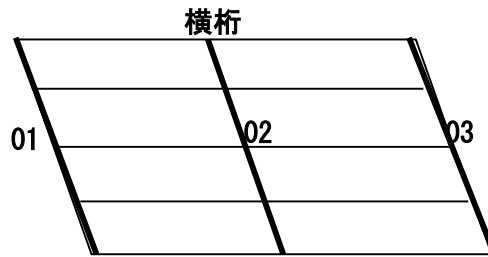
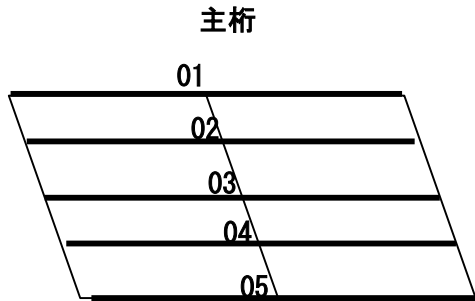
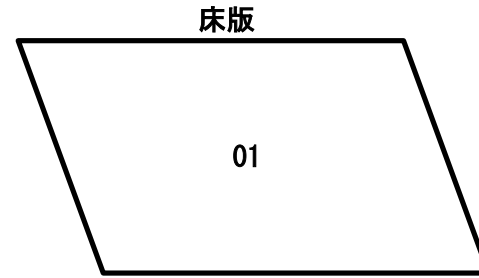
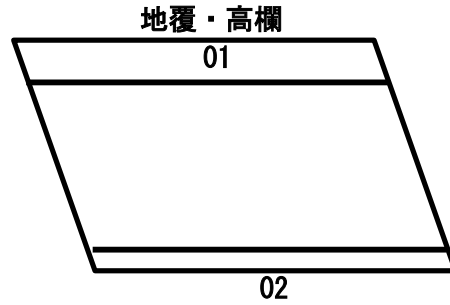
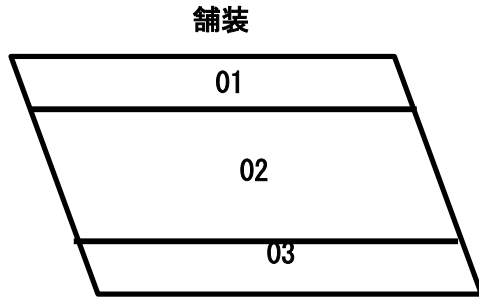
変 状 写 真	写真番号	12	径間番号	1	メモ	写真番号	14	径間番号	1	メモ		
	部材名	床版			対策区分	B0	部材名	床版			対策区分	B1
	変状の種類	床版ひびわれ	変状程度	c	t=0.2 L=1500	変状の種類	漏水・遊離石灰	変状程度	d	A=600×400 A=500×400		
												
	写真番号	20	径間番号	1	メモ	写真番号	34	径間番号	0	メモ		
	部材名	排水施設			対策区分	B1	部材名	下部工			対策区分	C1
	変状の種類	防食機能の劣化・腐食	変状程度	e	床版 漏水・遊離石灰-d A=200×200	変状の種類	ひびわれ	変状程度	e	A2橋台堅壁 A=150×200 A=100×300 漏水・遊離石灰-d		
												



点検調書(その7) 部材番号図	径間番号	1
-----------------	------	---

ふりがな	まるまるはし	施設番号	000000	管轄	〇〇土木	点検年月日	今回	2011/10/20	前回
橋梁名	〇〇橋	路線	道路種別	一般国道		路線指定	緊急輸送(1次)		
所在地	〇〇市△△町××		路線名	〇〇号		点検実施者	〇〇〇〇(〇〇コンサルタント) 〇〇		

部材番号図



点検調書(その1) 橋梁の諸元

ふりがな				施設管理番号				管轄	〇〇土木	点検年月日	今回 :	前回 :
橋梁名				路線	道路種別				路線指定	緊急輸送(1次)		
所在地					路線名				点検者(社名)	点検責任者		
架設年	橋長				活荷重・等級				適用示方書	上部工 :	下部工 :	物件1
上部工形式	幅員	全幅員	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線	車道幅・車線	歩道幅	地覆幅	中央帯	中央分離帯	交差物件	物件2
		有効幅員										物件3
下部工形式	調査足場	梯子			特記事項							物件4
	関係機関協議先											
基礎形式	次回点検(予定)			年	特筆すべき劣化環境							
総合診断結果	健全度(橋単位) II(主要部材: II、主要部材以外: II) ※コメントの最後に年月日を記入すること											

点検調書(その2) 一般図

ふりがな		施設番号		管轄	〇〇土木	点検年月日	今回		前回	
橋梁名		路線	道路種別		路線指定					
所在地			路線名		点検実施者	〇〇				

一 般 図	
-------------	--

点検調書(その3) 現地状況写真

※前回写真と同一位置からの撮影を原則とする。

ふりがな		施設番号		管轄		点検年月日	今回		前回	0
橋梁名		路線	道路種別		路線指定					
所在地			路線名		点検実施者					
現 況 状 写 真	写真番号	1		メモ	写真番号	2		メモ		
	写真説明	橋面			写真説明	側面				
	写真番号	3		メモ	写真番号	4		メモ		
	写真説明	桁下			写真説明	竣工年月			昭和50年3月	



点検調書(その4) 径間別点検結果		径間番号	1																																	
ふりがな	施設番号	管轄	点検年月日	今回	前回																															
橋梁名	路線	道路種別	路線指定																																	
所在地	路線名	点検者(社名)		点検責任者																																
上部工形式		下部工形式		基礎形式																																
変状の種類 対象部材	鋼部材の変状			コンクリートの変状			その他			石材					共通					主たる変状		備考 (補修されていれば、その内容、効果を記入する。)														
	① 防食機能の劣化・腐食	② 亀裂	③ ゆるみ・脱落	④ 破断	⑤ ひびわれ	⑦ 剥離・鉄筋露出	⑧ 漏水・遊離石灰	⑪ うき	⑬ 路面の凹凸	⑭ 舗装の異常	⑯ その他	石材ひびわれ	断面欠損	ずれ・開き(空洞)	石材抜け落ち	ふくらみ	敷石ひびわれ	アーチ・輪石の変形・法線形の変状	⑰ 補修・補強材の変状	⑱ 変色・劣化	⑲ 漏水・滞水		⑳ 異常な音・振動	㉑ 異常たわみ	㉒ 変形・欠損	㉓ 土砂詰り	㉔ 沈下・移動・傾斜	㉕ 洗掘	健全度判定	変状番号	劣化要因コード					
上部工	輪石																																			
	要石																																			
	壁石																																			
下部工	橋台(鞞石積み)																																			
	橋脚(水切り石)																																			
	基礎																																			
その他	高欄・防護柵																																			
	地覆																																			
	舗装																																			
	排水施設																																			
	その他																																			
備考																																				

※ 対象部材や対象変状が無い場合は「-」を入力。  
 入力を行う場合、対策区分は半角英字「A・B0・B1・C1・C2・E1・E2・S1・S2・M」のいずれかを入力。  
 主たる劣化要因についてはコード入力とし、<1:経年劣化(中性化を含む), 2:疲労・耐荷力不足, 3:塩害, 4:アルカリ骨材反応, 5:施工不良・初期損傷, 6:その他>から選択。

点検調書(その5) 変状図	径間番号	1
---------------	------	---

ふりがな	施設番号		管轄		点検年月日	今回	前回
橋梁名	路線	道路種別	路線指定				
所在地		路線名	点検実施者				

変 状 図	
-------------	--

点検調書(その5) 変状図		径間番号	1							
ふりがな	0	施設番号	0	管轄	0	点検年月日	今回	1900/1/0	前回	
橋梁名	0	路線	道路種別	0	路線指定	0				
所在地	0		路線名	0	点検実施者	0		0		

変 状 図	
-------------	--



点検調書(その5) 変状図		径間番号	1							
ふりがな	0	施設番号	0	管轄	0	点検年月日	今回	1900/1/0	前回	0
橋梁名	0	路線	道路種別	0	路線指定	0				
所在地	0		路線名	0	点検実施者	0				

変 状 図	
-------------	--

点検調書(その6) 変状写真	径間番号	1
----------------	------	---

ふりがな	施設番号	管轄	点検年月日	今回	前回
橋梁名	路線	道路種別	路線指定		
所在地	路線名	点検実施者	〇〇		

変 状 写 真	写真番号	径間番号	メモ		写真番号	径間番号	メモ	
	部材名		対策区分	B0	部材名		対策区分	
	変状の種類	変状程度			変状の種類	変状程度		
	写真番号	径間番号	メモ		写真番号	径間番号	メモ	
	部材名		対策区分	B0	部材名		対策区分	
	変状の種類	ひびわれ	変状程度		変状の種類	剥離・鉄筋露出	変状程度	
			親柱(起点側左)					

点検調書(その6) 変状写真	径間番号	1
----------------	------	---

ふりがな	0	施設番号	0	管轄	0	点検年月日	今回	2010/10/20	前回
橋梁名	0	路線	道路種別	0	路線指定	0			
所在地	0		路線名	0	点検実施者	000			

変 状 写 真	写真番号		径間番号		メモ	写真番号		径間番号		メモ		
	部材名				対策区分	部材名				対策区分		
	変状の種類		変状程度			変状の種類		変状程度				
	写真番号		径間番号		メモ	写真番号		径間番号		メモ		
	部材名				対策区分	部材名				対策区分		
	変状の種類		変状程度			変状の種類		変状程度				

点検調書(その6) 変状写真	径間番号	1
----------------	------	---

ふりがな	0	施設番号	0	管轄	0	点検年月日	今回	2011/10/20	前回
橋梁名	0	路線	道路種別	0	路線指定	0			
所在地	0		路線名	0	点検実施者	000			

変 状 写 真	写真番号		径間番号		メモ	写真番号		径間番号		メモ		
	部材名				対策区分	部材名				対策区分		
	変状の種類		変状程度			変状の種類		変状程度				
	写真番号		径間番号		メモ	写真番号	34	径間番号	0	メモ		
	部材名				対策区分	部材名				対策区分		
	変状の種類		変状程度			変状の種類		変状程度				

点検調書(その7) 部材番号図 径間番号 1

ふりがな		施設番号		管轄		点検年月日	今回		前回
橋梁名		路線	道路種別		路線指定				
所在地			路線名		点検実施者				

部 材 番 号 図	
-----------------------	--

点検調書(その5) 損傷図		径間番号	2							
ふりがな	0	施設番号	0	管轄	0	点検年月日	今回	1900/1/0	前回	
橋梁名	0	路線	道路種別	0	路線指定	0				
所在地	0		路線名	0	点検実施者	0		0		

部 材 番 号 図	
-----------------------	--

点検調書(その5) 損傷図		径間番号	3							
ふりがな	0	施設番号	0	管轄	0	点検年月日	今回	1900/1/0	前回	0
橋梁名	0	路線	道路種別	0	路線指定	0				
所在地	0		路線名	0	点検実施者	0	0			

部 材 番 号 図	
-----------------------	--

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度			
				経度			
(フリガナ)							
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検時に記録				点検責任者		
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁					
	横桁					
	床版					
下部構造						
支承部						
その他						

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I ~ IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。



状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真に記載の

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p style="text-align: center;">上部構造(            )【判定区分:            】</p>	<p style="text-align: center;">上部構造(            )【判定区分:            】</p>
<p style="text-align: center;">支承部【判定区分:            】</p>	<p style="text-align: center;">下部構造【判定区分:            】</p>

## 橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度		橋梁ID
				経度		
(フリガナ)						
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)

## 部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

## 定期点検時に記録

## 応急措置後に記録

部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁						
	横桁						
	床版						
下部構造							
支承部							
その他							

## 道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

## 定期点検時に記録

(判定区分) (所見等)

## 全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
橋梁形式		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造( )【判定区分: 】	上部構造( )【判定区分: 】
支承部【判定区分: 】	下部構造【判定区分: 】